

の傾向、合併症治療目的の転院依頼の注意事項も提示したい。

7 総合病院における「ストレス外来」の現状報告

金安 亨太・山田 治*・鈴木 康一**
松田ひろし***

立川メディカルセンター悠遊健康
村病院臨床心理
同 精神科*
東京医科大学精神医学教室**
立川メディカルセンター柏崎厚生
病院精神科***

【はじめに】立川総合病院では、精神科の外来を「ストレス外来」と院内標榜し診療を行っている。今回は、当科を受診される患者について、今年の特徴をご紹介します。

【方法】初回診察時における診療記録の内容を検討する。

【対象】2006年1月より2006年12月までの初診患者（594例）の発言内容

（患者の内訳；男性244名・女性350名，平均年齢：48.2歳）

【報告内容】

- (1) ストレス外来を受診される患者は、神経症性障害・ストレス関連障害などが殆どである。（ICD-10コード：F4）
- (2) 例年より、30代～50代にかけての男性の割合が多い。
- (3) これまでは20代～30代の男性はあまり受診に至っていないが、今年は30代男性の割合が多いことが特徴として挙げられる。
- (4) 特に、うつ病患者において30代男性の数が

多い。

- (5) ストレス因を見てみると、30代男性では仕事に関わるものが中心であった。

40代男性では家族内の関係や出来事の割合が高く、

50代男性ではさらに身体の病気について訴えられることが多くなっていた。

【まとめ】

- ・当科はもともと、神経症性障害、ストレス関連性障害で受診する患者が多く、女性の割合が多いという特徴があるが、今年は男性の割合が例年より増えている。
- ・男性の中でも特に30代から50代が目立ち、働く男性が受診されるのが今年の特徴と言えるか。
- ・男性では、うつ症状が中心であり、環境の変化、仕事の多忙さから受診にいたるケースが多いように思われる。
- ・仕事や職場の環境の変化が、個人の生活全般に影響を受けやすい30代男性に特徴が大きく出たのではないかと推測する。
- ・現在でも、地震を契機に受診にいたる患者も見られる。

II. 特別講演

心理士を中心としたコンサルテーション・リエゾン・サービスの理論と実践

三井記念病院神経科 部長

中嶋 義文

同 神経科臨床心理 臨床心理士

満田 大